

菊池溪谷に生息する哺乳類

菊池溪谷は、森と川の生態系が交錯する場所に生息する動物たちの楽園である。哺乳類では、ネズミ、モグラ、コウモリ、テン、ムササビ、タヌキなど約 20 種が生息している。これらの動物の多くは小さく、主に夜間に活動するため、観光客が目にすることはほとんどない。溪谷で特徴的な哺乳類は、ヤマネとカワネズミの 2 種である。

夜行性の**ヤマネ** (*Glirulus japonicus*) は、体長 6.5～8cm、尾は 5cm ほどで太くフサフサしている。毛色は薄茶色で背中に黒い線があり、木の上で果物や花の蜜、昆虫などを食べて生活する。手足の指にある小さな曲がった爪のおかげで、枝にしがみつきながら逆さまになってとても速く走ることができる。冬眠は 5 ヶ月ほどで、寿命は 3～6 年。絶滅危惧種ではないが、九州では希少で、天然記念物に指定されている。

カワネズミ (*Chimarrogale platycephalus*) は日本に生息する陸生哺乳類の中で唯一、淡水域の水中生活に適している。体長 11～14cm、灰黒色の短毛が密生し、手足の指の間が毛むくじゃらでオール役目を果たす。暗がりの川を泳ぎ、水生昆虫、小さなカニやエビ、魚などを捕らえる。菊池溪谷のように、瀬と穏やかな淵が混在している場所が好適である。本州ではよく見られるが、九州では比較的珍しく、四国では全く見られない。